

2026年1月20日

「可逆性脳梁病変を伴う軽症脳症 (Mild encephalitis/encephalopathy with a reversible splenial lesion (MERS))の臨床的特徴に関する研究」

1. 研究の対象

2010年1月1日から2025年6月30日に当センターに外来受診時または入院中に頭痛、痙攣発作、意識障害などを発症し、脳MRI画像検査を経てMERSと診断され医療介入された患者さん。

2. 研究目的

MERSという疾患概念は単一の原因で生じる病名ではなく異なる様々な患者背景により誘発される急性の脳症を包括した疾患概念であり、おもに脳MRI画像検査所見で脳梁膨大部に異常信号を有することで規定される症候群です。一般に症状およびMRI画像所見は数日～1・2週で改善が期待される可逆性の良性疾患であるとされているが、程度が重いと日常生活に大きな支障を生じることがあります。一般に小児に多い症候群とされていますが、成人例の多数例の臨床的特徴を報告した研究は本邦において未だ数が少ないです。そこで我々は当院を受診され、MERSと診断され、医療介入が行われた患者さんを抽出し、その臨床的特徴について調べます。

3. 研究方法

当院の脳MRI画像検査においてMERSの画像所見を呈し医療介入を受けた患者様の臨床情報を電子カルテから抽出し、その年齢、性別等の基礎的情報ならびに血液・脳脊髄液の性状、画像上の特徴、治療方法、転帰、再発の有無などについて調べます。

4. 評価方法

MERSの脳MRI画像所見は、脳梁膨大部に限局する異常信号を呈するタイプと、脳梁以外にも大脳白質に異常信号を呈するタイプに分かれます。ほとんどの例は前者とされており、後者の頻度は低いとされています。MERSの脳MRI画像所見を呈した症例を抽出し、その患者背景・転帰などについて検討します。

5. 研究期間

倫理委員会承認後から2029年3月31日まで

6. 研究に用いる情報の利用開始予定日

2026年3月31日～

7. 研究に用いる試料・情報の種類

試料：使用しない。

情報：診断名、年齢、性別、臨床症状、電気生理検査、脳 MRI、採血、髄液検査結果等

8. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先

大阪市住吉区万代東 3-1-56

大阪急性期・総合医療センター 脳神経内科

研究責任者：隅蔵大幸 電話 06-6692-1201 内線 7375